

前回 WG の指摘と対応

第 16 回水陸移行帯 WG (H24.2.27 開催)

No	議 事	頁	意見及び指摘事項	事務局回答	対応状況
1	SW16:資料-1-1 第 14 回・第 15 回 水陸移行帯 WG の 指摘と対応	8	長期的水位低下の定義「2週間以上に及び BSL-50cmを下回る減少」は暫定的なものとして検討願いたい。	了解した。	-
2		9	長期的水位低下の頻発の定義「2~3年に1度程度の頻度で発生すること」は、規則的なものとは考えず、例えば20年のスパンで見た場合にそのような頻度である、というように考えるべきである。この定義も暫定的なものとして検討願いたい。	了解した。	-
3		11	重点課題①、②、③の記述について、それぞれ①「産卵遡上・仔魚の降下が阻害されることにより、アユ・ビワマスの再生産が阻害される」、②「浅場の貝類等が死滅することにより、個体数が減少するとともに再生産量も減少すると考えられる」、③「ヨシ帯に依存する魚類の再生産あるいは成育場が消失する」等に改めてはどうか。	了解した。	【資料-3】 ご意見を参考に、今回表現を改めました。
4		-	長期的水位低下の頻発の問題は、生態系だけに絞るのか。	水陸移行帯 WG では、生態系だけに絞って検討していきたいと考えている。	-
5	SW16:資料-2 環境に配慮した瀬田川洗堰試行操作に関する取り組みについて	2	伊庭内湖は内湖であり、琵琶湖のデータと同列で評価できるのか。	内湖の取り扱いについては検討させていただきたい。	【資料-2】 滋賀県水産試験場に確認した結果、調査期間中は伊庭内湖と琵琶湖との間の水門が開放されており、伊庭内湖の水位は琵琶湖と同じになるとのことでした。そのため、伊庭内湖のデータを琵琶湖の他のデータと同列で取り扱いました。
6		11	ホンモロコは、水位に伴って上下する産卵基質を設置する等、産卵しやすい環境を人為的に整えることも考えてはどうか。	-	滋賀県と意見交換を行っています。
7		11	滋賀県水産試験場からは、「こうすればよい」というようなご意見はあるか。	現段階で水産試験場からのご意見として提示できるものはないが、水産試験場とは今後の現地調査も含めて議論させていただきたいと考えている。	【資料-2】 ホンモロコ卵調査のデータを提供いただき、事務局のデータと合わせてとりまとめました。
8	SW16:資料-3 長期的水位低下に関するモニタリング調査結果(速報)	-	平成23年度と同じ時期に調査しても、結果の精度は高まるが、成果はそれ程得られないと思われる。8~9月頃の気温の高い時期なら調査する意味があるのではないか。	平成23年度は諸事情により調査開始時期が遅れてしまったが、平成24年度は7月から調査を実施したいと考えている。	【資料-3】 今年度は7~11月に調査を実施しました。